

会 議 録

会 議 名	令和7年度第1回東浦町男女共同参画推進委員会	
開 催 日 時	令和7年7月29日（火） 午前10時から正午まで	
開 催 場 所	メモリーとんがったスタイル文化センター 実習室	
出 席 者	委員	山崎 宏子委員長、高見 靖雄副委員長、 中島 美幸委員、外山 淳恵委員、松下 玲子委員、 下谷 環委員、戸張 里美委員、児玉 しげみ委員、 川口 法成委員
	事務局	宇治田地域創造部長、筒香住民自治課長、黒田コミュニティ支援係長、酒井主事
欠 席 者	なし	
議 題	1 開会 2 議題 （1）第3次東浦町男女共同参画プランの度進捗状況について （2）住民意識調査について	
非公開の理由		
傍聴者の数	0名	
審 議 内 容 （ 概 要 ）	別紙のとおり	

住民自治課長 8名の出席により会議開催の定足数に達していることを確認
※1名は会議途中から出席
傍聴者の確認（傍聴者0人）
会議録作成のための録音の了承
会議資料の確認

1 開会

地域創造部長 本年4月から機構改革により新たに地域創造部ができた。「地域を創造する」という壮大なテーマに聞こえるが、住民の皆様活動を後押しするというのが目的のひとつである。地域の課題解決に向けて、住民の皆様と一丸となって進めていきたい。
本日は本計画の進捗状況報告と、2026年度が計画の中間見直しの年となることから、今年度実施する住民意識調査について説明する。委員の皆様には忌憚のない意見をいただきたい。

2 議題

（1）第3次東浦町男女共同参画プランの進捗状況について

事務局 第3次東浦町男女共同参画プランの概要及び施策進捗状況調査表の見方について説明。

基本目標1「男女共同参画の意識づくり」について抜粋して報告。

委員 No.1「意識啓発・広報の徹底」について、「防災をテーマにしたパネル展示を行った」とあるが、どのような内容だったのか。

事務局 被災地における、表には出ていない性被害などをテーマとしたパネル展示を行った。

委員長 被災地における性被害を防ぐために、防災課で行っている取り組みはあるか。先日避難所の説明会に行ったが、パーティションで男女の更衣室を分けるという話があり、それはよくないと思った。現在職員は女性1名の配置であり、女性の視点も取り入れるためにも増やすということも必要なのではないか。

委員 防災会議の男女の割合を見ても、女性は少ない。これでは女性の意見は通らず、気づきがないかもしれないと感じる。他自治体で、備蓄品の粉ミルクを一か所に集中して保管していたが、避難

所に避難してくる子どもたちはすぐにでもミルクが必要であり、町が壊滅的な状態になった時に届かないというのは駄目だという意見が出て、やっと備蓄品の見直しが進んだということがあったそう。

男女だけではなく年齢や障害の有無などいろんな立場の方がいるので、それぞれのニーズについて会議の場で話し合えるとよい。近年異常気象などもあるため、早急に対応が必要なのではないか。

委員 No.8「男女共同参画の視点に立った教育の推進」について、教育課の実績として「道徳の授業でいじめ問題等を扱い、お互いの個性を尊重する意識を育てる。」とある。「いじめ」の表現について、ジェンダーに関するいじめなどを指しているのかなとも思うが、「いじめ」とひとまとめにしてしまうと、内情が見えてこないのではないか。実際、幼いころからジェンダーに関する个性的なことでからかわれるといった被害は男児のほうが多いといわれている。“男の子だからこれくらい恥ずかしくないだろう”といったように男児の性が軽んじられがちである。学校現場でのいじめは深刻であると聞くか実際はどのようなのか。

委員 中学生になると LGBT についての言動やしぐさがきっかけで、いじめにつながるようなケースもあったりするというのは聞いたことがある。

委員長 からかいから始まるいじめが多い。トイレで冗談半分でプライベートゾーンを見せてしまったことがきっかけなど。

委員 いじめの形も変わってきている。もう一步踏み込んだ表記をするのが良いのではないか。

委員長 DV も女性に対してだけではなく、男性に対しても多いと聞く。支援内容なども女性に特化した書きぶりになっていたりするため修正していく必要があると感じる。また、男性も被害者であることを今こそ声をあげていくべき。

委員 同じく No.8 で「児童・生徒がお互いの個性を尊重する意識を育てる。」とあるが、現状で言うと、女生徒は理系に進む子が少ない。男女の学力差はほとんどないと言われている。国としては色々な業界で女性の理系の人材が必要だという動きもある。男女関係なく進みたいほうへ進んでよいということを伝えるため、学校で意

識的に取り組んでももらえると未来が開けるのではないか。男性保育士・看護師が少ない、女性の理系学者の就職率が低いといったことが見受けられる。個性を尊重するという意味でも、男女それぞれの分野で活躍している人のロールモデルを提示していくとよいのではないか。

事務局 自分が高校生だった頃のイメージとして、男性は理系、女性は文系というのがあったため、女性にもそういった選択肢があるということを気づかされた。

事務局 “リケジョ”という言葉を一時期よく聞いた記憶がある。女性が理系の道に進めない要因としてはどんなことが考えられるのか。

委員 現在でも“リケジョ”は国が推進しているが、常態化したせいかあまり聞かなくなった。女性が理系に進めない要因として考えられるのは“無意識の偏見”である。親とか教師による“就職先がない”とか、“婚期が遅れる”などの何気ない発言が根本ではないか。

事務局 近年では結婚に対する価値観も変わってきているように思う。今後社会の大きな変化が期待できるのではと感じている。

委員 様々な分野でまだ男性のほうが多いものの、女性率が上がっているものも見受けられる。

委員 女性の設計士が増えている。リケジョブームの際に就職した人たちがちょうど今結婚し、出産に入るタイミングである。彼女たちがどうするかが今後に関わってくると思うが、出産後戻りやすい環境を作ることが今後の課題だと考えている。

委員長 正規で働いていた人が出産・子育て期を経て非正規になってしまうケースが多い。社会として意識改革が必要だと思う。

事務局 基本目標2「就労・家庭での男女共同参画」について抜粋して報告。

委員 No.9「仕事と家庭・地域生活との両立の支援」について、男性の育児休業取得者は約7割と分かるが、どのくらいの期間取得して

いるのか。

事務局 1 か月～1 年など期間はそれぞれ異なる。男性職員も育児休暇を取る流れが出来てきている。

委員 育児休暇取得後に困ったりすることはないのか。

事務局 期間は事前に知らせるようになっており、それを元に休暇取得者分の業務の割り振りを行う。不在時の業務が滞ることなく進むため、戻ってきた際の受け入れ体制も出来ている。

委員 育児休業取得者に対する事後調査は行っているのか。不当な扱いを受けているとか、課によっては取りやすい、取りにくいなどの意見もあるのではないか。やってない場合はぜひやるべきである。

事務局 事後調査の実施の有無については人事課に確認が必要だが、業務状況によって取りにくい課も存在しているのは事実である。どの仕事も誰でもできる体制を作っていこうと動いている。

委員 ぜひ男性の育児休暇取得率 100%を目指してほしい。
同じく No. 9 で年休の取得率が平均 17 日となっているが、この数値は高いのか。年間 20 日付与ですべてを取得していないのはなぜか。

事務局 県内でも上位である。風邪などで休むなど万が一の時を考慮し、計画的に休みを取っていることが考えられる。人によっては 30 日以上年休を取っている職員もいる。休みたい時に休みやすい雰囲気はできている。

事務局 基本目標 3「意思決定の場・地域での男女共同参画」について抜粋して報告。

委員 No. 17「女性の役職登用率の向上」について、係長級以上、課長級以上の数値の記載の仕方について、「(うち女性○名)」の表記がよくない。係長は男性になるものなのだと思ってしまう。「男性○名、女性○名」の表記にしてほしい。

事務局 担当課へ伝える。

委員 女性の役職登用率についてだが、自分の身近では役職に就ける前に打診をした結果、本人が辞退するという話をよく聞く。役職に就くことで力をつけたいと前向きな人材もいれば、家のことができない、家庭の理解を得ないといけないといった理由で辞退する人もいるといい、そういった理由での辞退はやはり男性より女性のほうが多いのだろうと思う。役場の中でもそういったことはあるか。

事務局 職員は毎年、自己申告書を提出しており、昇格希望の有無について記載する箇所がある。昇格を希望しないと記載する者もいるとは聞く。

委員 国の調査の結果、やはり女性のほうが昇格を望まない人が多い。一番の要因は家庭との両立が難しいためとなっている。女性は以前のように仕事は辞めなくなったが、正規職員から非正規職員になり、短時間労働をしている人が多い。

事務局 この現状をどうするかが国全体の1番の問題であると感じている。昇格を望まない原因は現管理職にあるという意見もある。魅力ある管理職になっていく必要があるのかなと考える。また、組織自体にも問題があるとも考えられるため、そういった部分の見直しも必要なのではないかという声もある。

委員 会議の委員数について、まだまだ女性0人のところも見受けられるがどのように考えているか。

事務局 各課へ呼びかけているものの、数字になかなか結び付かない。

委員 空き家対策の会議に出席したが、子育ての地域拠点が欲しいといった女性の視点での意見が出ていた。

委員 空き家事業をやっている所を知っているが、大家が世代交代する際に返してほしいと言われ、事業が終わってしまったと聞いた。大家さんが男性、事業実施者が女性だった所は断られた。逆に共に男性だった所は、世代交代後も引き続き契約できたという。そういった場面でも、男女差があるのかもしれないと感じた。自分も経験したが、空き家を使い始めてもいつ急に返してほしいと言

われるかは分からないと言われた。建物をコツコツ直して、うまく生き始めた頃に返し、事業もできなくなるというのは厳しい。

委員長　やはり何に関しても見る視点が違うため、男女平等だとよいと感じる。

委員　空き家関連で、東浦町でさかだちバンクが4月から始まったと聞いた。町として積極的にPRして欲しい。

委員　女性の委員不足については、防災会議より、自主防災会のほうが心配である。他の会議でも同じように資料だけでは見えない部分がたくさんありそう。

委員長　「女性をもっと入れて」と言っても意見がなかなか通らない。また女性を会に誘っても入ってくれないのが現状である。そういった部分について、役場としても後押しをしてほしいと感じる。

委員　町の様々な会議について、充て職が多すぎるとの声があった。公募委員は女性が多い。公募委員を増やしたら女性の割合も上がり、会議で色々な意見が出るのではないかな。

委員　何でもいから女性を入れる、ではなく、適任を選んでほしい。会議に出席したが、全く内容が分からず意見も言えないということがあった。

委員　可児市では女性委員は無作為抽出で候補者を選び、やってみたいという方にまず学習会に参加してもらう。その中から委員として推薦するというシステムを作ったそう。時間はかかるが、こういったしくみ作りが必要かもしれない。スウェーデンでは除雪について、朝、子供たちを送迎する母たちの声を取り入れ、大通りからではなく、歩道から除雪したところ市民生活が円滑にいくということが見えてきたというケースがあったそう。都市計画もジェンダーの視点で会議がまわっていくべきである。会議の内容が分からないことが問題ではなく、全く意見を言えない会議が開かれていることが問題だと思う。

事務局　基本目標4「健やかに暮らせる社会づくり」について抜粋して報告。

- 委員 No. 29「心身の健康づくり」の、スポーツ教室の参加者について、男女別の人数が分かれば記載してほしい。
- 事務局 担当課へ確認する。
- 委員 No. 25「被害者の保護、自立支援」について、課題点で「庁舎が離れているため、相談者が来所された際に円滑な引継ぎができるように、相談受付時の関係機関との連携体制について確認をする必要がある。」とあるが、これはよいのか。町民に影響すると考えられるため、早急に対処すべき。
- 事務局 機構改革でこの体制となった。業務内容上、保健センターを役場へ持ってくることは難しい。再配置計画なども踏まえた上で検討が必要だと考える。
- 委員 ハラスメントについて、最近“香害”という言葉を目にする。においの成分によって、子どもが学校に行っても教室に入れない、不妊につながるなどの問題が起こっているといわれている。山梨県の自治体では“フレグランスフリー”の活動を行っている聞いた。東浦町でもポスター掲示等で周知するべき。
- 事務局 町ホームページでも呼びかけをしており、庁舎内にポスターの掲示も行っている。
- 委員 No. 30「健康保持の支援」について、保育士への取り組みをぜひ教員にも広げてほしい。SNS で子どもたちがすぐ情報を手に入れることができってしまう時代である。基本的な知識は子どものうちに身に付けておくべき。
- 委員 ただの性教育ではなく、自分を守るための教育をしてほしい。保育園で年齢に応じた知識を身に付けていけば、小学校・中学校でバトンを受け取った先生方もやりやすいと思う。
- 委員長 保育士や教員にしても、何度も研修を受けて、何度も話を聞いていかなければ、なかなか意識は変わらない。男女共同参画全体への意識も同様だと思う。ぜひこれからも職員教育を続けていって欲しい。

(2) 住民意識調査について

事 務 局 住民意識調査について説明。

委 員 問 10 の項目について、男性に関する設問を追加した点は、これまで普通に「女性が働くことについてどう思いますか」と聞いてきたことを際立たせるのでよいと感じた。アンケートは一つの学習素材でもあるので、これを見て、そんなことを考えたことなかったと思ってもらうことも必要だと思う。

委 員 調査対象者は無作為抽出とのことだが、男女のバランスよく抽出できるのか。

事 務 局 性別や年齢などバランスよく抽出する。

委 員 QR コードでの回答はよいと思う。よく、アンケートを回答していていつ終わるのか見通しが持てないものがある。あと○問のように記載できるとよいのではないか。

委 員 前は 30～40 代の方の回答率が高かったような記憶がある。すべての世代が回答しやすいよう実施してほしい。

事 務 局 全ての世代の方が答えやすいよう工夫して作成する。

委 員 問 10 が加わったことで、問 1 の「男は仕事、女は家庭という考え方がありますが」という設問が少し引っかかる。

事 務 局 「男は仕事、女は家庭という考え方について」の表記に変える。

閉会